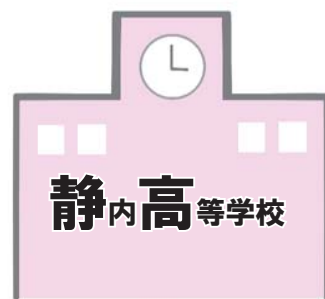


### シリーズ第2回 部活動の状況 学校祭等近況報告

町民に知ってもらおう！繋がろう！

# わが町高校PR

※静内高等学校、静内農業高等学校の近況報告などを  
年4回掲載します。



静内  
でかなえる！  
静高  
フライド②

静内高校には、運動部10部、文化部7部、外局3局の合計20の部局があり、文武両道の精神で活発な活動が行われています。中学校から取り組んできた部活動に今も頑張っている生徒をはじめ、本校で初めて部局活動に参加した生徒や、中学校の時とは異なる部局に入った生徒も、顧問の先生の指導や部員同士の交流、そして、熱心な練習を通して上達し、高い戦績をあげています。



陸上競技全国大会会場前にて

3年次に引退して進路活動に専念する生徒のほとんどが、「部活動が高校生活で一番思い出に残っている」と振り返ります。また、進路活動での最後の追い込みで、精神的にも体力

的にも集中して大きな力を発揮できるのも、部局活動で培ったものがあってこそと言われています。高校生生活を充実させ、自身の成長、そして、進路希望を実現させるため、部局活動での取組は、本校において重要なものとなっております。

### 静高祭

7月11日(土)、12日(日)の両日、第66回となる静高祭を開催しました。今年度は「Searching for own way」の先へ」をテーマとし、学校祭を通じて仲間と協同し、時には困難にぶつかりながらも、素晴らしい作品を作り上げることができました。学校祭両日とも晴天に恵まれ、北海道らしいさわやかな天候の中で、パレードやパフォーマンス、一般公開を行うことができました。今年度から地域の皆様に参加していただくためにベストパレード賞を設けたところ、例年以



学校祭1日目 パレードの様子

上の盛り上がりを見せました。2日目には、教室公開や模擬店、展示・発表などを行いました。来場者は700名を超え、遊園地のコーヒーカーップを模した乗り物や迷路、射的などのアトラクションで、多くの町民の方に楽しんでいただけたのではないかと考えています。準備期間を含めた1か月間、多くの方々のご支援をいただき学校祭を成功させることができました。来年に向け、また新たにスタートしますので、今後ともよろしく願いいたします。



静内農業高校の諸活動

本校では、5月に独自の行事である観桜会を実施しました。校舎裏手にある二十間道路沿いの桜並木を眺めながら、生徒・教職員がともに食事を楽しみました。7月には2日日程で学校祭を行い、2日目については一般公開に合わせてサマーフェア(販売会)を同時に開催しました。保護者をはじめとして、多くの方々に来校していただきました。今後は、9月26日(土)にオータムフェア、12月12日(土)にクリスマスフェア(開催日はともに予定)を実施



学校祭「模擬店」

します。また、11月26日(木)に農業クラブ活動の一環であり、1年間の各種農業に関する調査・研究活動の結果を発表する「校内実績発表会」を、町公民館で実施します。保護者をはじめ、広く町民の方々にも公開いたしますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

### 部活動の状況

本校には、8つの運動部・同好会と4つの文化部があります。各部・同好会ともに、それぞれ日々練習等に励んでいます。特に一番所属人数の多い馬術部



インターハイ「カヌー競技」

は、早朝の管理から放課後の部活動まで、1日を通して活動しています。今年度の各種支部大会の結果、柔道部は第65回北海道高等学校柔道大会に2名出場、卓球同好会も第70回国民体育大会北海道予選会に2名出場と、全道大会に駒を進めることができました。また、部としては設立していませんが、食品科学科1年國保誠也くんが第10回北海道高等学校カヌー選手権大会で3競技に優勝し、京都府で行われたインターハイに出場しました。生徒数が少ないため部員も少ない状況ですが、生徒は部活動を通して身体的・精神的に大きく成長しています。

### 就職指導の改善に関わる 研究指定の取り組み

今年度、「平成27年度就職指導の改善に関わる研究」の研究指定を北海道教育委員会より受けました。新聞報道等にもあるように、高校生の就職を取り巻く状況は年々好転しております。日高管内を見ましても、昨年度は全ての高校が就職内定率100%を達成しております。しかしながら、早期離職やミスマッチなどの課題が山積みしている状況も、依然として解決していません。そこで、静内高校をはじめ、日高管内全ての高校と協力し、課題解決を目指して研究活動を進めています。高校生の現状にあるさまざまな課題を一度に解決することは難しいです。しかし、生徒一人ひとりがたくましく、誇りを持った人生を歩むために学校で



面接対策講座

何ができるのか、さまざまな角度から研究をしています。

次回の掲載は  
12月号です。  
(11/25発行)